
銀魂～冷血の鬼姫の日常～番外編 雷雅の過去

ナナフシ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

銀魂〜冷血の鬼姫の日常〜番外編 雷雅の過去

【Nコード】

N7373Y

【作者名】

ナナフシ

【あらすじ】

『蘿蔔』さんにリクエストされて書きました！

雷雅の過去が上手いかどうか心配ですがよろしくお願いします！
本編もよろしくお願いします！

(前書き)

ナナフシ「『蘿蔔』さんのリクエストで雷雅の過去を書きました！」

雷雅「俺の過去か」

ナナフシ「今回は雷雅だけです！前書きと後書き」

雷雅「よく思いついたもんだな」

ナナフシ「フッフ、そうでしょう」

雷雅「それじゃ、どうぞ」

俺は仲間と共に天人の群れの中に居た。

俺は攘夷戦争に参加して、戦っている。

この時だろう……銀の兄貴達に会ったのは。

仲間はドンドン殺されて、俺だけが残った時だった。

「ちっ！ 追い込まれた！」

俺の速さを持ったとしても無理だ！

俺はそう踏んだ。

死ぬしか……ないのか？

俺は死を覚悟した。

その時だった。

「オラアアアアア！」

「ハアアアアアア！」

突如、銀髪の侍と水色の髪をした女侍が現れた。

二人は連携で天人共を斬っていく。

そして、一旦俺の所まで来た。

「大丈夫か！」

「え？ はい！」

「生き残りはあなただけ？」

「そうです」

俺はその二人と話していた。

「“白夜叉”と“冷血の鬼姫”のコンビが来たぞオオオオオ！」

天人達がそう叫んだ。

この二人がああ……。

「突撃じゃああああ！」

「わああああああ！」

「鬼兵隊！ 俺に続け！」

『うおおおおお！』

援軍がやって来た。
俺はそれのお陰で何とか助かった。

「助かりました！俺は疾風雷雅です！」

「俺は坂田銀時だ」

「私は雨宮咲です」

「高杉晋助だ」

「桂小太郎だ。ちなみに好物は蕎麦だ」

「え？何で好物言っただ？出せってか？出せってか！？」

「ツラは黙ってる！」

「ゴフツ！」

桂は銀時の跳び蹴りを喰らった。

「わしは坂本辰馬や！」

「わかりました。銀の兄貴に、咲の姉御、杉の兄貴、ツラの兄貴、辰の兄貴って呼ばせもります」

「……何故（じゃ）？」「」「」

「ツラじゃない桂だ！」

「俺は皆さんを尊敬しているんです」

「何かな？」

「雷雅さんって私より年上ですよね？」

「え？まあ」

「なら咲でも」

「いえ！咲の姉御と呼ばせてもらいます！」
雷雅は断言した。

これの口論がしばらく続いた。

「天人が攻めて来たぞ！」

それを聞いて、銀時達は出た。

『うおおおおお！』

銀時達は突撃した。

「オラア！」

雷雅は薙刀で天人を切り裂いていく。

「オラオラオラオラ！」

素早い動きで翻弄してドンドン斬っていく。

「“迅雷”も居るぞ！」

「ちくしょう！速すぎる！」

俺は何の為に戦っているのだから……。

俺は考えた。

国を護る為？違う。

大切なものを護る為？違う気がする。

なら、何の為に戦うんだ？

こんな戦争が終わればいいと思う自分と終わらないでほしいと思う

自分が居る。

俺は何を求めているんだ？

俺は……俺は……。

俺は天人の屍の山に立ち、ニヤリと笑った。

そうだ……自分は……

俺はそう思った。

強者を求めてるんだ。

現在。

「銀の兄貴やるなア」

俺は空を見上げた。

「ククク……面白くなってきた」

俺は闇夜に消えた。

(後書き)

ナナフシ「これでどうだ!」

雷雅「良いんじゃないか?後は読者が満足してくれるかだ」

ナナフシ「だよねえ。『蘿蔔』さん!これでよろしかったでしょうか!?後、銀魂二次小説の『銀色』と『スロ―ライフ』を頑張ってください!」

雷雅「それじゃあな」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7373y/>

銀魂～冷血の鬼姫の日常～番外編 雷雅の過去

2011年11月22日01時58分発行